

## 今月の情勢 ~経済・金融の動向~

### 原油市況

原油価格（WTI 期近・終値）は、6月上旬に1バレル=72ドル台まで上昇。その後、米国の雇用情勢の悪化などを受け、世界経済の不透明感が増したことから、7月中旬に60ドル割れとなる場面があったが、このところは米国での株価上昇などを受け、再び65ドル台前後へ反発。

### 米国経済

米国では、景気対策法（総額7,870億ドル）により、4月から所得税還付が開始されたほか、失業率（急）上昇に対応し、今夏に60万人以上の雇用を創出するべく前倒しで対策が執行される見通し。一方、米連邦準備制度理事会（FRB）は、08年12月の連邦公開市場委員会（FOMC）で政策金利を史上最低の0~0.25%とし、ゼロ金利を容認する政策を取っている。また、3月のFOMCでは住宅ローン証券化商品の購入（1.25兆ドルへ上限拡大）や、向こう半年間に最大3,000億ドルの長期国債の購入を決定。金融・財政、両面からの景気でこ入れなどにより経済指標にも改善を示すものが増えているが、雇用削減圧力は根強く、先行きの景気不透明感は依然残る。

### 国内経済

日本経済は、輸出や生産面で持ち直しの動きを見せているが、設備投資や雇用の悪化傾向は継続している。5月の鉱工業生産指数（確報値）は前月比+5.7%と、3ヵ月連続で上昇。6、7月分についても、改善が続くと見込まれているが、勢いは弱まる見通し。また、設備投資の先行指標となる機械受注（船舶・電力を除く民需）の5月分は前月比3.0%と減少に歯止めがかかっていない。なお、日銀は08年12月の金融政策決定会合で政策金利を0.1%に引き下げたほか、CP・社債の買入れを決定するなど、企業金融の円滑化策を講じており、年内は継続する方針。3月の会合で、08年12月に続いて国債の買入れ額の増額（月1.8兆円）を決定。

### 金利・株価・為替

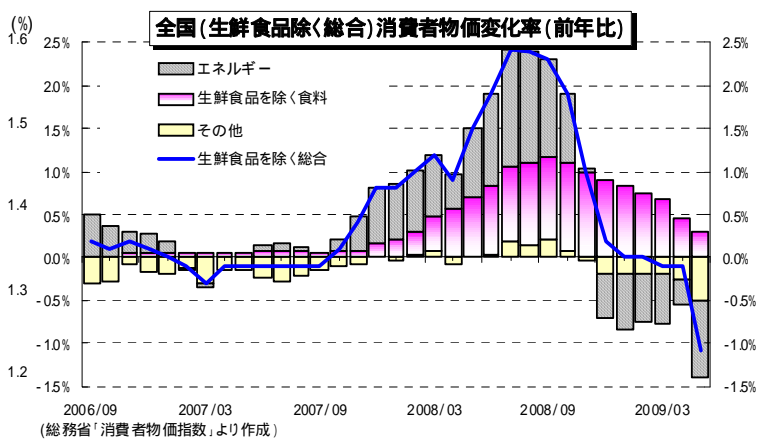
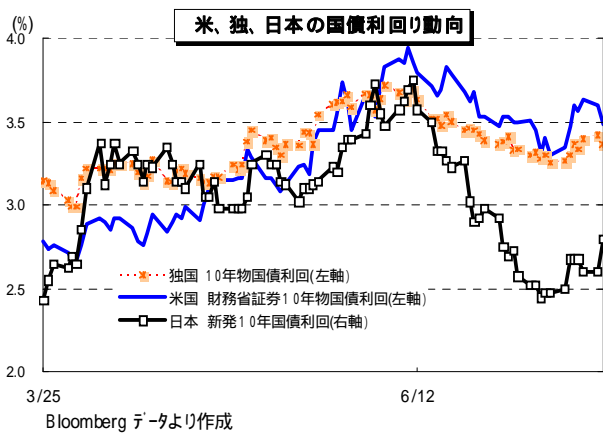
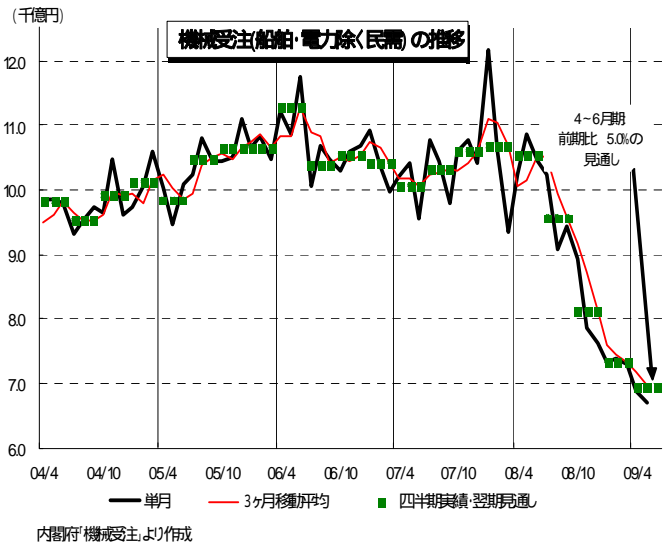
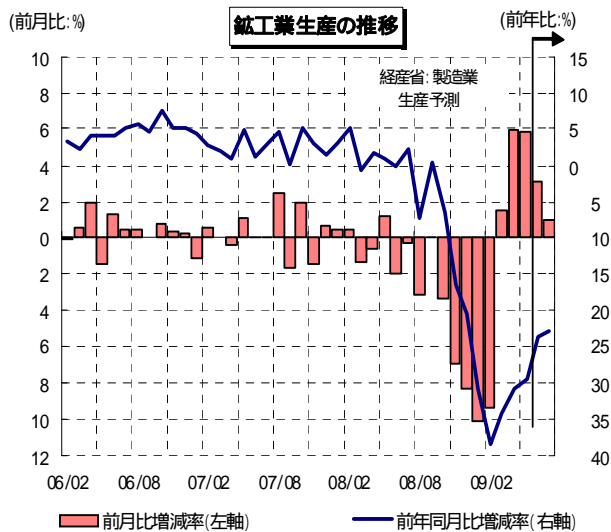
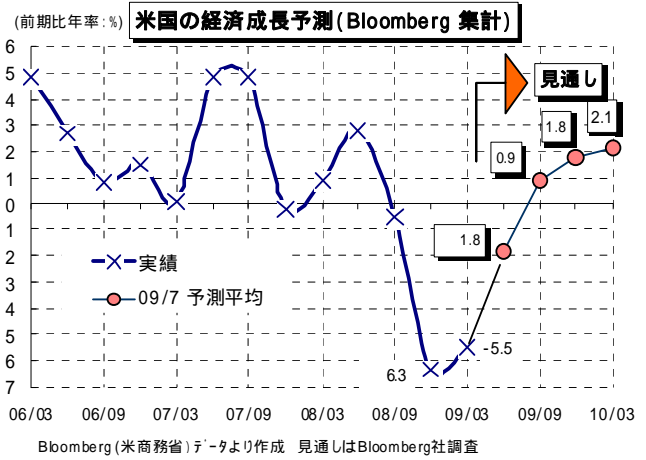
外国為替市場では、ドル・円相場が4月上旬には一時101円台となったが、米国債の格下げ観測や米国の雇用情勢の悪化などから円高ドル安基調となり、7月上旬は90円台前半で推移。日経平均株価は、6月中旬にかけて一時10,100円台まで上昇した後、米国での雇用悪化から景気楽観論が後退したことや円高進行を受け下落、一時9,000円近くとなった。しかし、米国での第2四半期決算発表から企業収益の回復期待が高まったことを受け、日経平均株価も上昇気味に推移。日本の長期金利の目安である新発10年国債利回りは、6月中旬に景気回復期待や財政赤字拡大を背景とした米長期金利の上昇につられる格好で、一時1.5%台後半まで上昇した。しかしその後は、株価の下落などから7月上旬に1.2%台後半まで低下。しかし、このところは更なる金利低下への警戒感や株価の上昇から、1.3%台で推移。

### 政府・日銀の景況判断

政府は、6月の景気判断で「悪化」の2文字を削除し事実上の景気底入れ宣言を行ったが、7月は「持ち直しの動きがみられる」と上方修正した。日銀は、7月の景気判断を「下げ止まっている」と、6月の「大幅に悪化したあと、下げ止まりつつある」から引き上げた。4月の「展望レポート」に対する中間評価（7月）では、経済成長率は4月時点の見通しに概ね沿って推移するとしたものの、中央値は下方修正された（前年度比 3.1% 同 3.4%）。

（09.7.24 現在）

## 内外の経済金融データ



(詳しくは、ホームページ-トピックス-[今月の経済・金融情勢] <http://www.nochuri.co.jp>へ)